

HOWEVER

HEAVY GAUGE 00 総集編



RIROLAND



HOWEVER

RIROLAND

HOWEVER

GADGUARD
&
HEAVY GAUGE 00

PRESENTED BY
RIROLAND

ハイ、そんな訳で「ガドガード&総集編」本でございます。
RIROLANDも今回でちょいとお休みします、
って事で、今までお蔵入りになった物や、
小部数だったりの素材をまとめてみる事にしました。
見たことのあるものがあるかも
しれませんが、楽しんで頂けたら幸いです。

ではでは。

CONTENS

- | | | |
|----|-------------------|--------|
| 05 | 「判んねェ…」 | 空鶴 |
| 15 | 「スピカおばさま御懐妊記念マンガ」 | 里見ひろゆき |
| 21 | 「シュガー味」 | 空鶴 |
| 27 | 「FF:YOU」 | 里見ひろゆき |
| 35 | 「ルキがルキであるために」 | 空鶴 |
| 41 | 「アラシ!三匹」 | 里見ひろゆき |

表紙 空鶴



全く…
知らなかった…

その胸
その尻
その指先に
その唇…

その全て…

『判んねエ…』
空鶴



ハジキ君
…

まさか
こいつが
こんなにも
『H』だった
なんて…



迷う事は
無かった...

てーか
迷うわけ
ねーって!

きかん



入れっぞ!

んっ
んっ



あ...あ...あ
んっ



はっ

んっ

あ

ハジキくわっ
…あっ
お、おっきいっ

ずん



はあああっ…

はっはっはっ

ず



気持ちいい
んっ…あっはっ

あんっ

はっはっはっ

あ

ハジキ…きっ

んんん

ハジキ

ハジキ

お尻…っ
お尻も…っ

ハジキ



ま、マジか…?



入らなかつたか…!



あああ

アッ

アッ





は、ハジキ音

は、ハジキ音
おっおっ...

は、ハジキ音

は、ハジキ音

もっせ
揺り回し

は、ハジキ音

は、ハジキ音



お...お尻

お尻めくれ
おっおっお



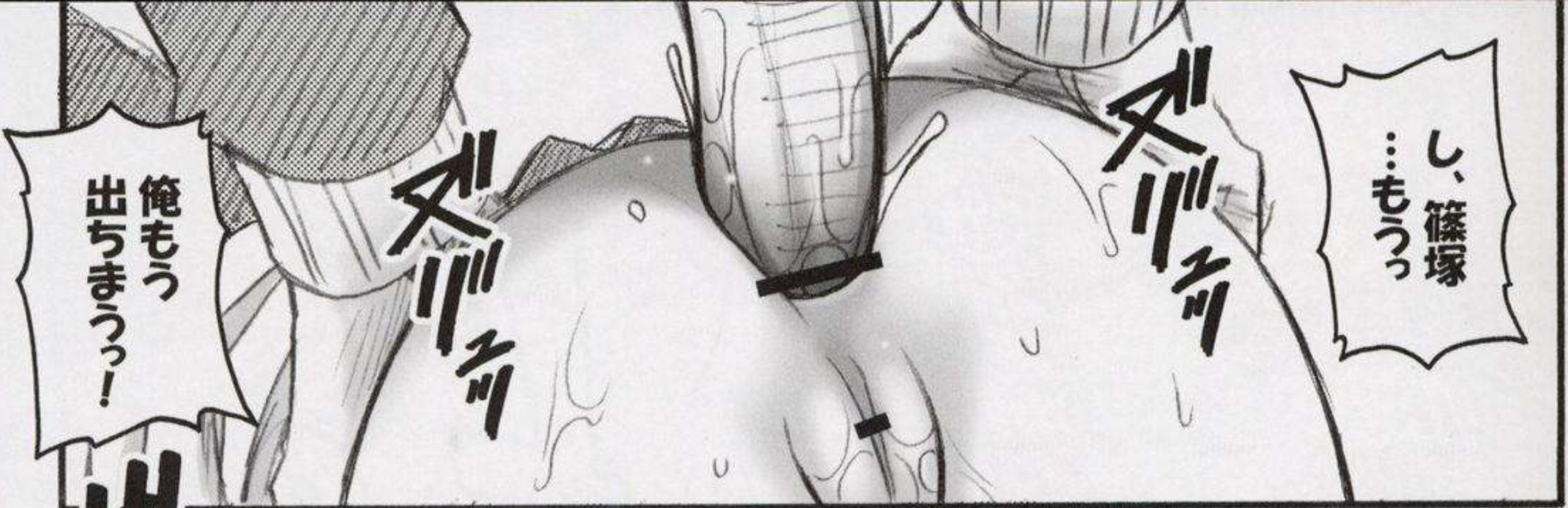
ひっ

あんっ

ガッ
ガッ
ユ

っ

ガッ
ガッ
ユ





そう言って
こいつは
俺を見る…

んふっ…
気持ち
良いね…?

……

……
わっ…
判んねけ
…

◇作品解説◇

ガドガドガード！
アラシ囃はびっくりするくらい思わせ
ぶりだ！って事で描かせて頂きました（笑
てーが、どいつもこいつもスカート短すぎ！
見えない様に描くのも大変でしょうに…。
しかしガード、分からない事多すぎ。いや
面白いんですけど。多分こうだろうと考えながら
見ないとあきませんな。でも面白い（笑
…どうやって完結させるのかなあ。

空鶴

GADGUARD

コピー誌の表紙として描いたアラシのカラー。
やっぱりこんなポーズをとれば見えてしまうのは
当たり前でして…（笑）

アイコもさつきも描きたかったなあ。




スピカおばさま御懐妊記念マンガ




キンコーン♪穏やかな日曜日、柊家にお客様がやって来ました。
『あらコメット。どうしたの?』
『おばさまおばさま!今日は私がおばさまにとっても楽しい事教えてあげようと思って!』
コメットさんがそう言いながらスカートを上げるとそこには見事なおちんちんが!
『コ、コメット!?!』
『うふふおばさま!わたし勉強したんです!ニンゲンのいのちの作り方、いっぱい勉強したんです!
だからおばさまのおなかの中のいのちにも...いっぱいいっぱい教えてあげます!』
『ココココメット!?!』
『エロワール♪』

あらあらコメットったら...相変わらずあわてんぼさんね!(声・九重佑三子)



『こ、こら…コメット！やめなさい！！』
『大丈夫です！パパさんからた〜くさん教えてもらいましたから！チンコピトさんをこのワレメピトさんに差し込んであげると…とても気持ち良いんです！…メテオさんにも教えてあげたんですが…泣いて喜んでくれました♪』

ズツ…ヌルルルウ…
コメットさんのおちんちんがゆっくりとスピカおばさまの身体の中に飲み込まれて行きます。
『ふわああ…おばさまの中…あったかくってキュウキュウしてます…。メテオさんのとは…ちがう感じ…』
『コ…コメット…』
コメットさんのぎごちない動きが余計にスピカおばさまの性感を刺激するようです。
しかしそこへ誰かが入ってきました！！
『コラッ！な、何をしとる！！！！』



『美穂…おまえお腹の中に赤ちゃんが
いるというのになんて事を…』
なんと入ってきたのはスピカおばさまの
旦那さま、修造さんでした。
『あ…あなた…止めさせて…。このままだと
私…おかしくなっちゃう…!』
『うるさいこの淫パイめ!お仕置きだ!!』
修三さんなんとそのままアナルにずぶずぶ
押し込みはじめました。
『あ…あな…かはあ……………っ!?!』
さすが山の男らしい、ワイルドな選択です。
『おじさまの…チンコピトさんと擦れて…
すっごくすっごく…感じて…こんなの
初めてです……』

『いいコメット？終わった後のチンコピトさんのお手入れも大切なよ。』
とスピカおばさまは修造さんのチンコピトさんをチロチロと舐め始めました。
『ほらコメットもやってみなさい。』
『は、は〜い！』
鈴口、龟头…睾丸までぺろぺろ舐め取ります。一所懸命ふたりでチンコピトさんをキレイにしているうちにお互いの舌を絡め合っていました。
『おばさまの舌って…とっても甘くて美味しいです…』
『コメットの口の中も…果物みたいで素敵だわ…』
うっとり唇を重ねるふたり。長いながいディープキスです。



それを見ていた修造さんのチンコピトさん、またムクムクと大きくなってきました。
勉強会はまだまだ終わりそうにありません。

しーぽん

宇宙の癒し系アイドルしーぽんですよ。
ハアハア。まあ光太も好きなんで2人とも
幸せになってほしいなあ、と。
ぼくはアリサをもらいます。(笑)





2003夏コミ同時発行の
 「すぺーす☆つあーず」。
 宇宙のステルヴィア本。
 しーぼんの可愛さ勝ち
 ですよ。

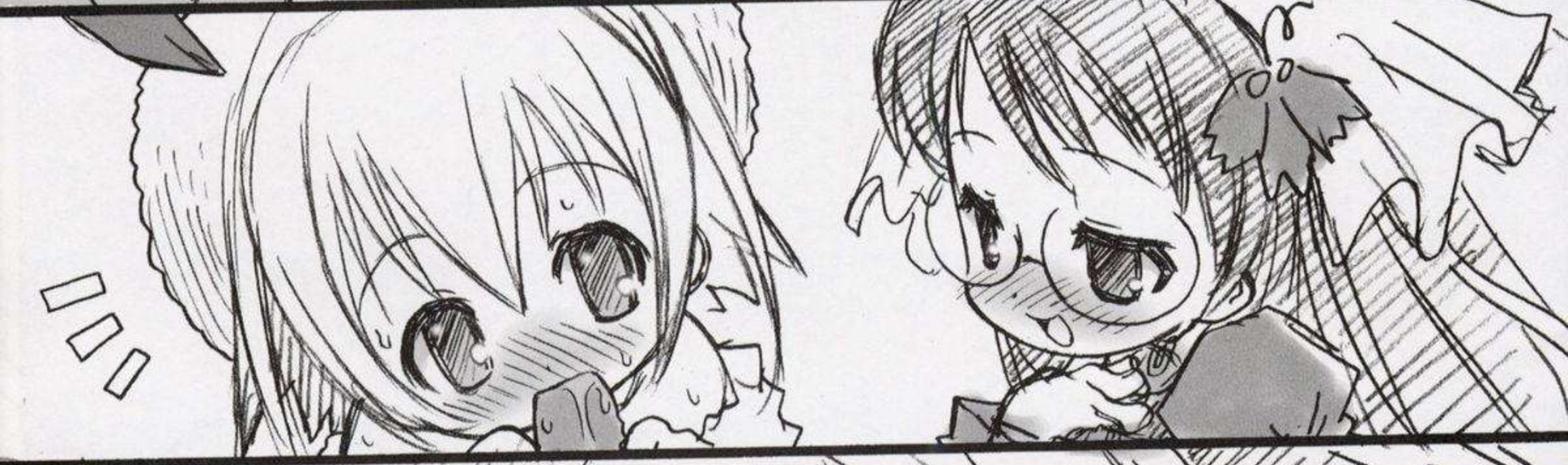
『シュガー味』

空鶴



chu!









何して
くたぐたぐ
!!

ちよと
あんた達!!
私の部屋で...

ガッ

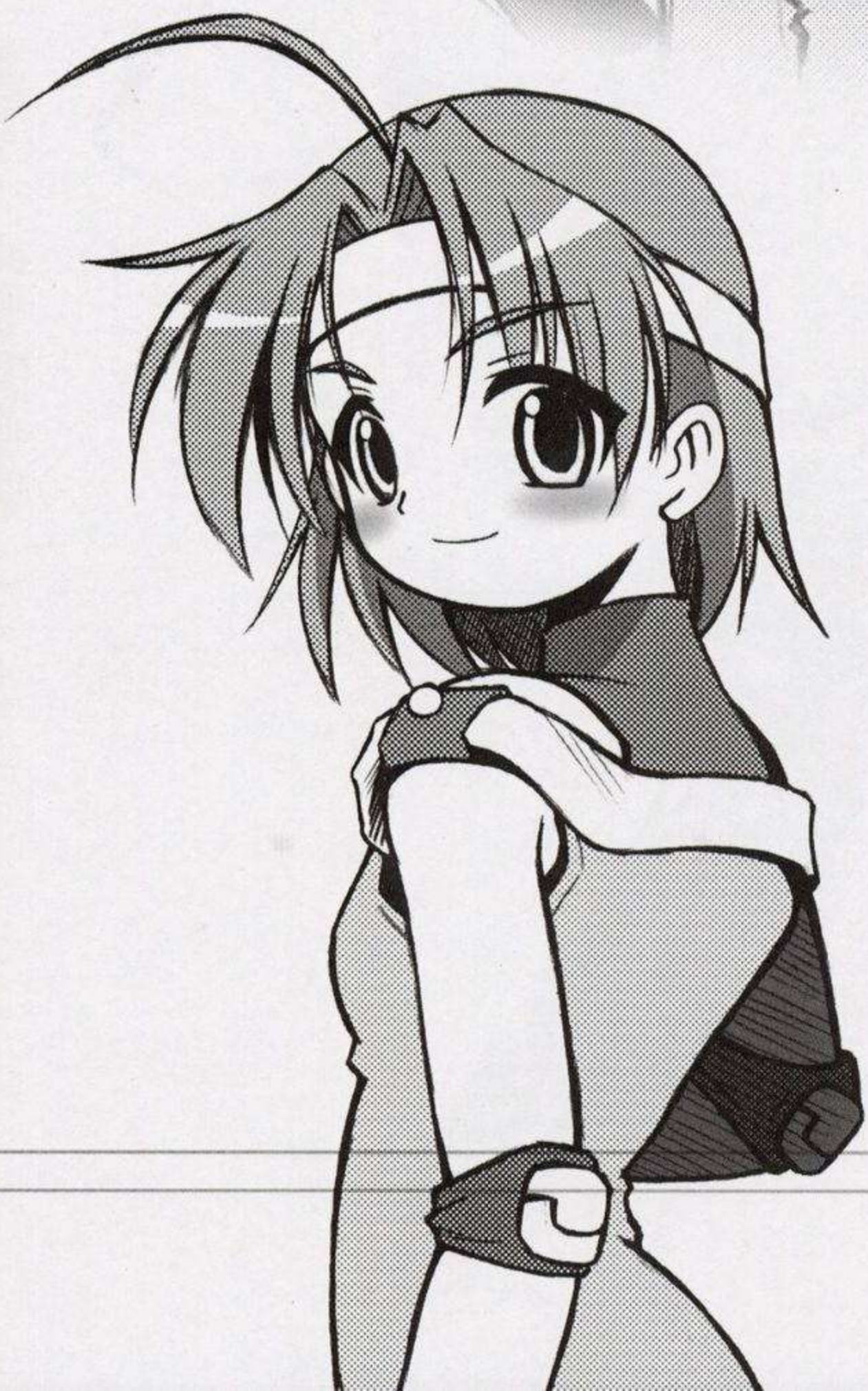
END

サークルカット

サークルカット用に描いたイラスト。いつも思うんですがサークルカットって難しい〜。



サークルカット



しーぼんとまいさん。
えーつと「ほぼたん」…
早くDVD出て下さい…。

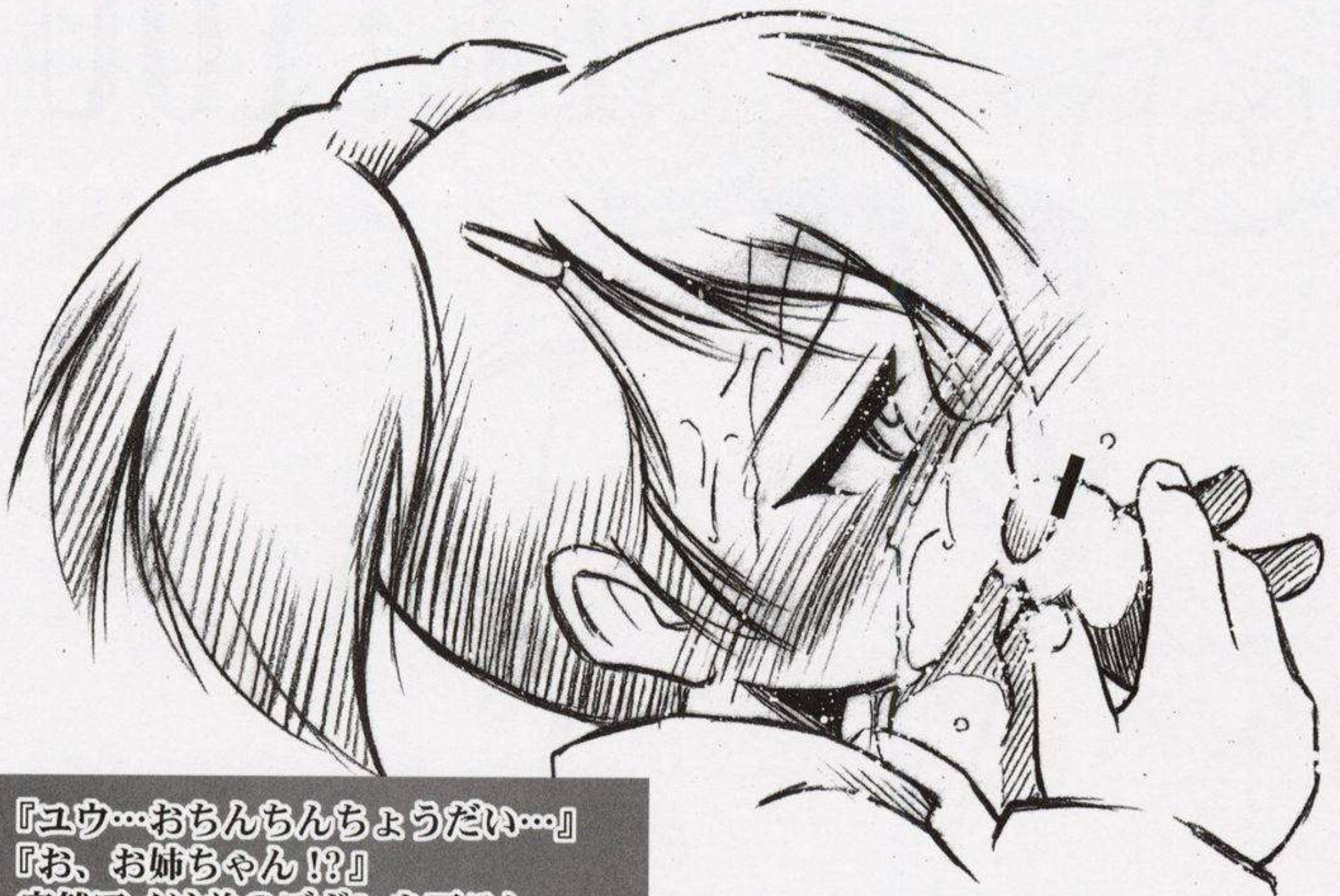


EE : YOU




『きゃああっ！』
アイの悲鳴が異界の森の中に響きました。
『お姉ちゃんどうしたの!?!』
見ると不思議な形の木の实から樹液がふきこぼれています。

『もお〜お！なんなのよう!!』
しかしその樹液は人間の中枢神経を狂わせる、恐るべき毒だったのです！



『ユウ…おちんちんちょうだい…』
『お、お姉ちゃん!?!』
突然アイは弟のズボンを下ろしその幼い性器をしゃぶり始めました。

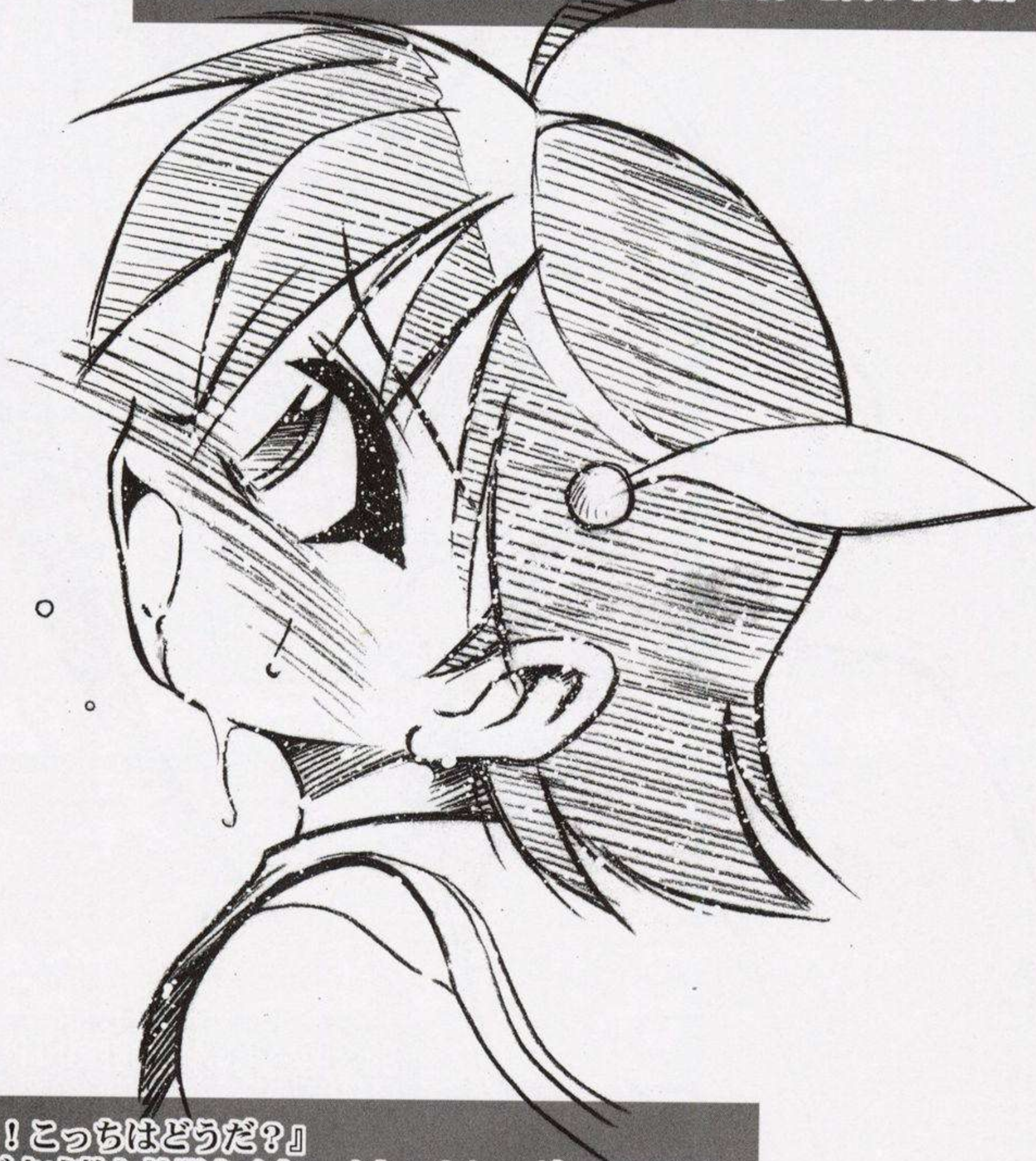


ガサッ！
背後の茂みが割れ中から半裸の
女性が出て来ました。
『リ、リサさん！お姉ちゃんが…
大変な事に…』
『ユ…ユウくん…良い所に…』
『!?!』

良く見るとリサも白い樹液を全身に
浴びているではありませんか!!

『のどが…渴いて…渴いて…』
意識も混濁しもはや自分が誰かも
分からない様子です。
『お願い…精液飲ませて…』
『リ、リサさん…』
普段の凛々しい保護者の面影は
どこにもありません。

『リサさんも…お姉ちゃんも…正気に戻って…あううっ!?!』
『ユウくん何言ってるのよ…私もアイちゃんも十分正気よ。』
『そうだよユウ! さっきからなんだかおかしいぞ!?!』
リサとアイはそう言いながらユウの服を脱がせていきます。
『うふふ…ユウくん可愛い…。私前から一度…こうしてみた
かったの♪』
リサはユウの顔を犬のようにぺるぺると舐め回します。
『リ…リサさん…くすぐったいです…。』
耳の中を舐められながらユウは泣きそうな声を出しました。



『ユウ! こっちはどうだ?』
アイが未成熟な性器をくちゅくちゅとしゅぶっています。
幼い顔とその仕草はまるで飴玉を転がす幼児のようです。
『お…お姉ちゃん…なんだか足がガクガクする…。』
『何言ってるの。すぐに気持ち良くなるわよ♪』
アイはチュパッと吸い上げると睾丸の方まで舌を這わせ
始めました。



『お姉ちゃん…出ちゃうよう…!!』
ドクッ…ドクンッ！樹液に良く似た自濁の液体が
アイの顔や胸に降り注ぎます。
『やだあ！目に入っちゃったじゃない…。』
『ふふ…お婆かさんねえ。私にもちょうだい♪』



リサもアイと一緒に精液を浴びます。
『ユウくんの…とっても濃くって美味しいのね』
『だめえ！ユウのは全部あたしがもらうんだからあ！』
『じゃあ私は…もっとドキドキする事…教えてあげる』

異界の木の実の毒はまだまだ消えそうにありません。



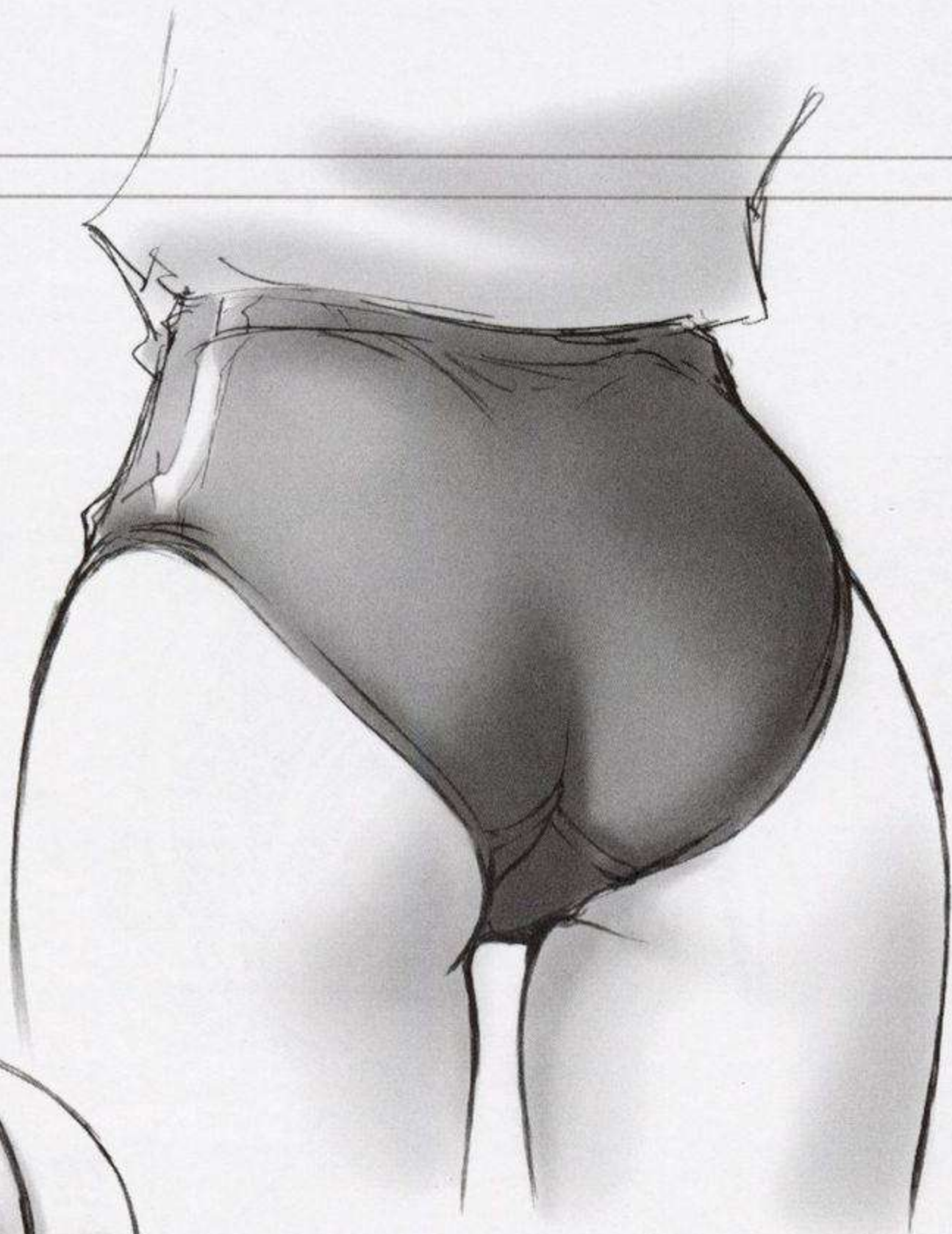
空を越えて～ラララ♪

10万馬力の科学の子～！やっぱ
アトムは永遠のシヨタっ子ですよ。
神様ゴメンナサイ。

でも今やってるアニメは…ゴニョゴニョ…

随分前のコピー誌に描いた
イラスト。

「ドラクエ」のマリベル嬢は
勝気でおしゃま、ストライク
ど真ん中ですよ！(笑)



そしてブルマ尻。…これはもう
言わずもがな。永遠のアイドル。



ルキがルキであるために
空鶴



もう許さない！
僕はもうガマン
出来ない…

ぞっ！！



…だって好き好き
「ルキのパン」く！！
何でやっつけて僕の心を
掴んで離さない！？



こーか
むしろ僕がこの手を
二度と絶対
離さないけどお！！

がま



こんな事して
許さないわよ

ぼた

ぼた

へんたい
へんたい
離しなさいよー!



きゅあつ

だんご



だめっ

激しす
...きゅあつ

だんご

だんご

あ



えっ!?

ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ

そんな
イキナリ...!?



そんじゃ
僕のも
舐めてく!!

びゅー!!



どうしたんだい
タカト!
え!?
ルキで遊ぶ!?

たーっ



…この2人
もう絶対許さない
わよ!

責任とって
もらうんだから
ねー!!



Returner

リターナーのミリ。実は空想的にちょっとだけ漫画描こうと思ってました(笑)これはその素材。



ミリが溝口達に捕まり、ひどい目にあう…よくある話をかなり気合を入れて(笑)
…てーが、いくら好きでもエロ漫画描くなよ(泣)ミリごめんなさい。

明日のナージャ

「デジモン」と同じように何人かで
合同誌を出す予定だったナージャ。
その表紙案。時間の都合上断念。
はふ〜ん、出したかったなあ〜泣



アラシ！三匹



きっかけは些細な事だった。バイトの帰り道、数人の少年が空気銃で猫を撃っているのを見てしまったのだ。そこらの雑貨屋で売っているおもちゃのようなシロモノだが…その子猫にとっての殺傷能力は十分持っている。

生きる為でも…誇りを賭けるでもない、享樂としての殺戮。アラシの心に激しい怒りが弾けた。

「やめなさい！」
駆け寄るアラシ。こう見えても腕には少々の自身がある。それに最近身の周りに起きている様々な出来事…『鉄鋼人』や『真田ハジキ』の影響のせいか…危険に対しての感覚が少し鈍磨しているのかもしれない。

「何だこのオンナ!?!」「カンケー無ェだろ!!」
予期せぬ闖入者に驚く少年達。だが無抵抗の子猫をいたぶるよりは興味が湧いたらしく…下卑た目をアラシの身体に走らせた。柔らかそうに膨らんだ胸。表面積を限界まで削った為か…ほとんど露になっている真白い太もも。そして妙にアンバランスな長い黒髪…。その雰囲気からここ『ナイトタウン』の出身ではない事が分かる。

少年達は目を交わすとこの新たな獲物に向かって飛びかかった。

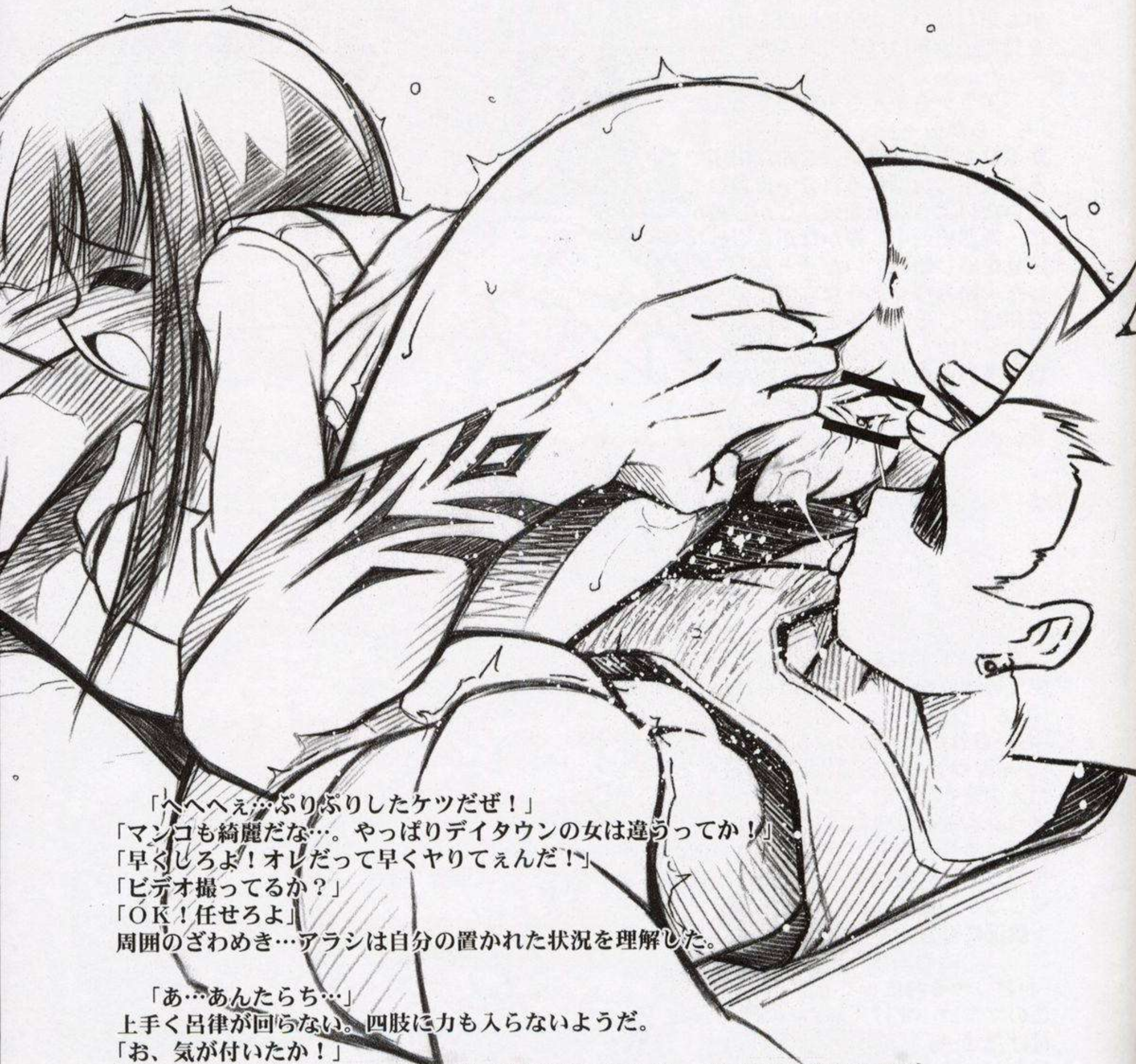
勝負は一瞬でついた。空気銃を構える間もなくアラシの拳と脚が少年達の身体を襲った。父が道場をやっていた為幼少の頃から叩き込まれた格闘技…日々自堕落に生きる少年など飛び道具を持っていても相手にもならない。ましてやおもちゃの空気銃では威嚇にもならない。

「い、痛エよお…」「助けてくれ…」
顔や腹を押さえて悶絶する少年達。その無様な姿を見てアラシ自身少々やりすぎたかと反省した。そういえば子猫はどうしたろう…？ふと視線を泳がせるアラシ。
その瞬間、全身を激しい光が貫いた。

「おお…助かったぜ…」
「な？持ってきといて良かっただろ？」
「チ…クソ女…！まだ身体が痛えぜ」
少年の一人が隠し持っていたスタンガンをアラシに押し当てたのだ。市販されているタイプだが、リミッターを解除して出力を15万Vまで上げた物だ。これなら熊でも気絶させる事が出来る。
「どうする？この女」
「まあ…とりあえずアジトに連れてこうや。いろいろお礼もしたいし」
「そうだな…色々とな」
少年達はよろよろと起き上がるとニンマリと笑った。



下腹部を這い回る感覚でアラシは目を醒ました。が自分がどこにいるのか、そして今どんな状況なのか理解できない。頭の芯がズーンと痺れる感覚…まだ小学校に通っていた頃、父の秘蔵の酒をこっそり舐めてみた次の日になった頭痛を何倍にも不快にしたような鈍痛が…考える事を拒否していた。



「へへへえ…ぷりぷりしたケツだぜ！」
「マンコも綺麗だな…。やっぱりデイトウンの女は違ってるか！」
「早くしろよ！オレだって早くやりてえんだ！」
「ビデオ撮ってるか？」
「OK！任せろよ」
周囲のざわめき…アラシは自分の置かれた状況を理解した。

「あ…あんたらち…」
上手く呂律が回らない。四肢に力も入らないようだ。
「お、気が付いたか！」
「篠塚アラシちゃん…。知ってるぜ？デイトウンから引っ越してきた酔狂な女がいるって聞いてたけど…まさかあんなオテンバだとはねえ」
「オテンバな女の子はお嫁に行けまちなよお～」
「おー仕置き！おー仕置き！」
囃し立てるギャラリー。
「く……」
「おっとまたオチャメしようとしてもムダだぜ？さっきの電気ショックで身体に力が入んねえだろ？」
「まあ殺す訳じゃなし。オレ等が飽きたら放してやるからさ」

少年がアラシの胸をゆっくりと揉み
しだいた。つきたての餅の様な感触で
手のひらに吸い付いてくる。薄くに
じんでくる汗が余計に感度を上げてい
るようだ。先端の突起に愛撫を加える
事も忘れない。次第に硬度を増すそこ
を見て…少年はほくそえんだ。

「アラシちゃんも…感じてるんだ？」
「ち、ちが……」

かぶりを振るアラシ。こんな場所でこ
んな連中に玩ばれる自分…自殺してし
まいたいような嫌悪感。しかし確か
に…嫌悪感の中に僅かながら奇妙な
感覚を感じ始めていた。とろとろ
した…絡みつくような心の中の
違和感…。その正体を探るべく
アラシはゆっくりと深く
息を吸い込んだ。

ぬ…ずずずぶぶぶ…
少年の剛直がアラシの身体を貫いた。
「はあ…うあああああ……」
「お…意外だな。この女初めてじゃねえぜ？」
「デイトウンのお嬢様にしちや遊んでたんじゃ
ねえの？」
アラシもその感覚に違和感を覚えていた。
ぬるぬるした自分の性器に…熱い肉の棒
をねじ込まれる感覚…。強烈な異物感を
感じながらもじんわりした鼓動が
下腹部にせり上がってくる。

「おお…それにしても
このマンコ…すげえ締め
付けだぜ…」
アラシの体内にゆっくり
出し入れされる赤銅色の
男性器。
「はああ…はああ…」
荒い呼吸で何かを感じ
取ろうとするアラシ。
嫌悪感はすでに
無くなっていた。



「うっ…出るっ……」

何人目かの少年がアラシの中に精を放った。すでに全員1回、多い物は3回以上アラシの中に射精していた。性器だけでなくクチや手でも男性器に奉仕させる…アラシの全身はすっかり精液でドロドロになっていた。だが滅多に無いご馳走を手に入れた少年達の欲望は尽きる事無く…美少女に精を注ぎ続ける。白濁の光沢がアラシを包み…ひとつのオブジェの様だった。

「うう…たまんねえぜ…。出しても出しても止まんねえよ」

「オレもだ…この女のマンコは底無しだぜ…」
グプッ！グチュプッ！まるでぬかるみを踏みしめるような音のするアラシの身体。しかし心の中に浮かんだ違和感の正体は未だに分からなかった。もどかしさ…強烈な焦燥感がアラシの心を縛り付ける。

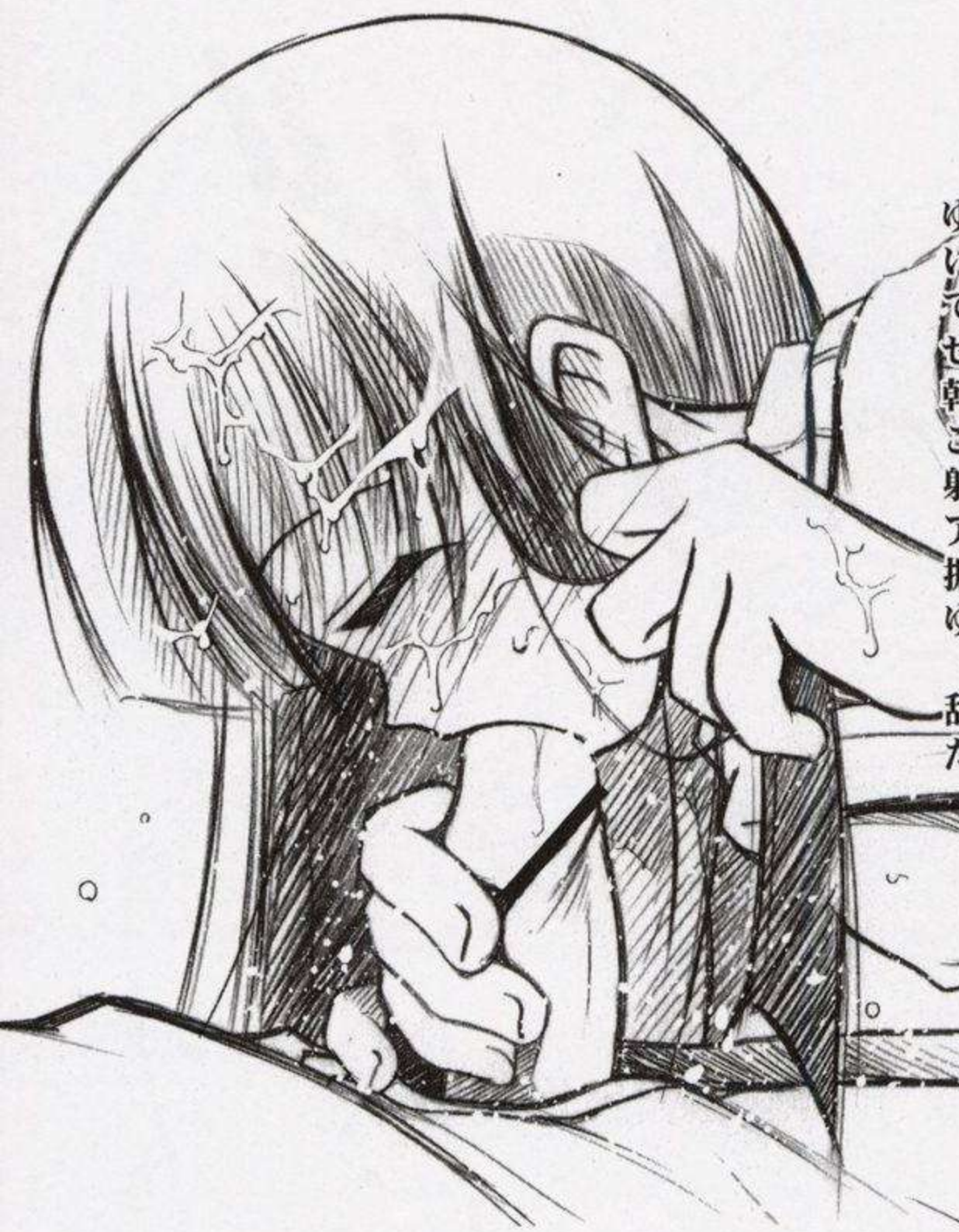
その時、アラシの口から意外なセリフが発せられた。

「もっと…もっとおちんちん頂戴…」

アラシは思い出した。かつて…父の道場で教え込まれた『女武道家』としての究極奥儀を。父とその門下生達によって…毎夜毎夜開発された自分の身体を。

父の流派は「忍術」を組み込んだ物だったので当然「クノイチ」としての術も存在した。だが家を出る際…その奥義は父親によって記憶の奥底に封印されていたのだ。アラシが普段身に付けている極端に短いスカートも…無意識に現れた「クノイチ」としての習性なのだ。

「ほら貴方達…もう終わりじゃ無いでしょ？」
ヌラヌラと赤い唇を舐めアラシが言う。まるでもうひとつの女性器が顔に出現したような…。それは子猫を助けた時の勇猛な少女でもさっきまでのおびえた顔をした少女でもなく…全く知らない女の顔だった。



ゆっくりと屈み込むとアラシはその剛直をゆるゆる飲み込んでいった。小さな口いっぱい広がる男性器の咽るような味と匂い。今ではその全てが愛しかった。先端に舌を這わせ小鳥のように鈴口を啄ばむ。と同時に指で幹を愛撫する事も忘れない。さっきまでのぎこちない仕草とは雲泥の差だった。もう2度射精している少年だったが…堪える間もなくアラシの口の中に白濁を吐き出した。驚く素振りも見せずアラシは口の中で汚液を反芻しゆっくりと嚥下していく。

ちゅルッ…最後に名残惜しむように口唇を舐める。その舌の赤さはまるで食虫花のようだった。

すぐに別の少年がアラシに押し掛かる。せわしない挿入。もはや誰も言葉を発しない。アラシの周りに群がる性の奴隷だった。アラシも新しい男性器を頬張り、ねぶり、精液を飲み干す。膈内には何人目かもわからない精液がどくどくと注ぎ込まれていた。





数時間後…意識があるのはアラシ一人だけだった。いったいどれほどの精を浴びたのだろう…？
ちゅルッ…舌なめずりをするとアラシは呟いた。
「ハジキくんにも…教えてあげなくっちゃ…」

続

☆作品解説☆

はい！そんな訳でアラシたんハアハアでした～！勝手に変なキャラにしちゃってすみません。「何であんなに短いスカートなんだろう…？」というのを考えていたらこんな妄想が出来上がってしまいました。『忍者』ってのは一応原作（「SPARKS」ね）のイメージを踏襲したって事で。（どっちみち全然キャラ違うんだけど…）

それにしても文章書くの難しいー！しかも修羅場ギリギリだから全然推敲とか出来ませんよ！本になってから凹む事請け合いですよ！！反省してるんであんまし苛めないで下さい…。

あと今回「昔のあんまり刷ってない本も再録しよう！」ってコンセプトだったので妙に懐かしい原稿も載っちゃってますが…ギャー！恥ずかちー！！うう…「再録メインだから楽勝！直しもキチンと入れるぜ！」とか思ってたのに…結局ギリギリまで描き下ろしの方やって直しなんか入れらんねー！恥の上塗り…。「コメントさん」も「FFU」も大好きなアニメなのに…。ううホント、色んな人にすみません。

里見ひろゆき



奥付

発行日 2003年8月16日
発行者 RIROLAND
発行協力 空鶴寺
印刷所 しまや出版さま

rl-max@din.or.jp



HOWEVER

GADGUARD
&
HEAVY GAUGE 00

PRESENTED BY
RIROLAND
FOR ADULT ONLY